

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500024		
法人名	医療法人 社団 孔和会		
事業所名	グループホーム あかね苑		
所在地	熊本県天草市久玉町5716-9		
自己評価作成日	令和3年1月8日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	令和3年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との繋がりを大切に、地域の行事に参加したり苑の行事に誘致し交流を図っている。グループホームの隣では、認知症カフェを月2回行い、また地域の方向けに生き生き百歳体操を毎週火曜日に実施しており利用者様も地域の方たちと一緒に体操に参加するなど開かれた施設である。講師を招き認知症や看取り等の勉強会も地域向けに行っている。また、母体である病院が同敷地内にあり急な体調変化にも対応でき入居者は勿論の事、ご家族の安心にも繋がっている。また、共用型デイサービスを利用し入居者と通所者の交流も図れている。職員の教育にも力を入れていて、法人内研修への参加は勿論、法人外研修への参加は多機能ハウスとの合同カンファレンス時に研修内容を復講するなど、全職員のレベルアップを図っている。資格取得の希望者には法人においてできる限りのバックアップをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「今を笑顔ですごせるように あなたの想いを全力で応援します」を理念として掲げ、入居者一人ひとりの想いに寄り添って丁寧な支援に努めている。コロナ禍のため面会を制限しており、家族の気持ちを推察して入居者一人ひとりの日々の暮らしを個人アルバムにして定期的に家族に郵送し、報告している。母体の眼科・内科医院と隣接しており、定期的な訪問診療・24時間相談・往診可能な体制があり、入居者・家族・職員の安心となっている。同一建物内で開催している認知症カフェでは、地域の人々と交流を行い、地域の福祉ニーズ・高齢者の課題の把握に努め、自宅訪問や行政との連携などを行って地域密着型事業所として地域貢献に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様に対する想いは理念とし、理念は施設内の数箇所に掲示しており職員一人ひとりが意識し実践している。理念について話す機会をカンファレンスの時に設けている。また、家族や来苑者にも分るよう玄関には大きく掲示している。	開設時に職員で話し合い、「個々の思いを大切にして、住み慣れた地域で安心して暮らしてもらいたい」との思いをこめてホーム独自の理念を作成している。定期的に行うカンファレンスにおいて理念について話し合うことで、職員への浸透を図り、行動規範となるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(どんど焼き、帰省客を迎える七夕飾りの準備、芋掘り)に出掛けたり、文化展には地区より作品の出展依頼があり出展した。交流会はすべて中止となったが小学生より33枚もの年賀状をいただき、大変喜ばれた。生き生き百歳体操、認知症カフェなどを通じ2ヶ月間は交流もあった。また、日常の活動の様子を広報誌「あかね丸」で伝え地域の回覧板を利用させてもらい周知出来るようにしている。	これまでは地域や地区の行事に参加したり、小学生の訪問を受けるなどして地域の人々と日常的に交流していたが、多くの行事・イベントが中止となり、交流する機会は少なくなっている。職員は、国道やお宮の掃除など、コロナ禍でも出来ることを行って交流を続けている。訪問中止となった小学校の子ども達から年賀状が届けられ、利用者だけでなく職員にとっても感動する出来事があり、地域の人々の温かさが感じられると共に、利用者と職員が地域に溶け込んでいることが伺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての理解や地域で支える必要性などサポーター養成に努め、2ヶ月間は地域の方々と交流し共に取り組んだ。その後は法人の広報誌、あかね苑の広報誌にて一方的ではあるが発信している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2ヶ月に1回の運営推進会議は中止とし、書類の配布を行い、そこで意見交換や情報の収集を行っている。	コロナ禍で対面での運営推進会議の開催が出来ないため、書面で「交流や行事の実施報告」「事故・苦情の状況」「研修報告」等を行い、委員にも意見や助言を書面で提出してもらうように依頼している。管理者は、外部評価の結果や研修の資料等も委員に配布し、具体的な内容についての意見や提案が出しやすいように工夫している。委員からの助言を検討し実践に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールでのやり取りや市の集団指導にて意見交換を行い、よりよい協力関係を築けるように取り組んでいる。また、台風時の福祉避難所開設等、市や地域からの要望にも対応している。	市役所の担当者とは、メール・電話・ファックス等で相談・報告・情報交換等を行い、何でも相談できる関係を築いている。在宅での生活継続が困難となっている人の情報交換や支援の連携など、市と連携して入居者と地域の人々を支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内やカンファレンスで拘束に対する勉強会を行い、知識を高め、グレーゾーンも排除する等より良いケアの提供に取り組んでいる。また、玄関の施錠は防犯目的以外行わない。	「身体拘束せずに事故を防ぐ方法」について、動画を見ながら自分たちのケアを振り返り、気づきを話し合う研修等を行っている。外に出て、車の行きかう様子や海を眺めることを日課としている人には、玄関前でも眺められるようにベンチを置いたり、一人で出かける様子が見られた時は、職員が車いすの利用者と一緒に同行するなど、様々な工夫をして安全に配慮し、拘束に繋がらないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修参加は勿論のこと、法人外での研修や勉強会にも積極的に参加しカンファレンスで復講をし意識付けしている。今年度はオンラインでの勉強会も行った。虐待は勿論、グレーゾーンも見逃さないよう注意を払い、ストレスケアの取り組みも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会に参加したり、外部の研修にも出掛け学んでいる。今年度は外部研修は殆ど中止となったが、機会があれば今後も参加し勉強したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書と重要事項説明書にて十分な説明を行い納得の上で署名捺印を頂いている。また、前ケアマネージャーも同席し、質問しやすい環境で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、ご家族の面会があった時や家族会でも意見や要望を聞いている。要望はスタッフで話し合ったり、法人内の部長、次長や理事長に相談し対応するシステムがある。	コロナ禍で面会ができない家族の為に、利用者のホームでの生活状況を個人アルバムにして担当職員が手紙を添えて郵送し、家族にも喜ばれている。意見箱を設置しているが利用はほとんどなく、職員は家族の要望など直接聞けるように話しやすい雰囲気作りを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で出た意見やカンファレンスでの意見や提案は早めに対応し行っている。また、意見や要望を言いやすいよう個別面談も行っている。	カンファレンスや話し合いでは、職員全員が意見や提案が言いやすい場となる様に心掛けている。また、管理者は、職員の体調を気遣ったり、プライベートなことでも相談に乗れるように、日頃からコミュニケーションの充実に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月2回の管理者会議や部署会議、ネットワーク会議において施設の問題点や職員の健康状態などについての報告や意見を出し改善へ向け努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で行われている研修は掲示板に貼り希望の研修があれば参加できるシステムをとっている。特に認知症や身体拘束・虐待の研修については管理者からも呼び掛けをし参加を促している。また、リハビリ部署に“体に負担の無い介助法”等の講義依頼をし職員の体調管理にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会も今年度は本部からの書面になり交流は出来なかったが、人吉の水害にはボランティアで職員1名が参加し、他の職員からは「義援金で支援を」との事で少額ながらお送りした。コロナが終息したらまた他施設への訪問も再開したい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し家族を交えた面会を行い、本人の要望を伺い、傾聴し安心して入居していただけるようしっかり話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時、本人を交えた面談とは別に、家族への面談を行っている。困りごとや要望等をしっかり聞き取り、家族の意に添えるよう努力することで信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって今何が必要なのかどのサービスを利用すれば解決できるのかを見極め、法人内のネットワーク会議や部署会議で意見を求めたり、より良い支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新聞折りや洗濯物を干したり置んだり食材の皮むきや食材切り掃除等、日常の家事を職員とともにやり支えあっている関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の誕生日には誕生会を開き家族にも参加していただいている。地域や施設での行事にも参加を促し、家族や知人の顔がいつも見られる環境づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くへのドライブ、地域行事への参加、季節の花が咲く場所へ出かけたり馴染みが薄れず以前の関係性を継続できるよう努めている。また、家族の協力のもと外出したり、短時間の一時帰宅の支援も行っている。	例年は、老人会のボランティア訪問を受けたり、ハイヤ祭りを見に行ったり、地域の行事に参加するなど、馴染みの場所・人々と会う機会も多くある。今年度は外出や交流を控える中、地域からの声掛けで玉葱の収穫・芋の苗植え・七夕飾りつけ・芋ほりなどに入居者と職員が参加し、馴染みの作業や人々に会える機会を得ている。施設内で開催される認知症カフェが再開できれば、さらに馴染みの人との再会・交流も期待できる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内での居場所、食事の席の配置、レクレーションやカルチャーでの席の配置等に工夫をし共に支え合う関係作りとなるよう職員は橋渡しを行う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時は面会に伺い、本人と家族の話しに傾聴するよう心掛けている。また、グループケアにも努め、初盆には必ずご自宅に伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中でその人の行動や言動から、どのように過ごしていきたいのか、意向を汲み取り、カンファレンス等で意見を出し合い、その人らしい暮らしができるよう検討している。また、家族へ連絡し協力依頼する事もある。	目が不自由な人には手を握って食事介助をし、「トイレに行きたい」と言うことをためらう人には、仕草などから読み取り支援することを心がけ、入居者が遠慮なく安心して過ごせる温かな雰囲気ホームづくりに努めている。レクレーションでは回想法を取り入れ、誰もが主役になれる時間を作り、利用者一人ひとりの思いや望みを汲みとって支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時には現在の状況や状態を伝え、家族からはどのような暮らしをされていたのか、また生い立ちにも触れ、家族の情報を今後の介護に活かし役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今まで出来た生活習慣を継続できるように環境を整えたり、残存機能を生かし出来ることをお手伝いしていただく事で一日が有意義となるよう努めている。また、筋力低下にならず個々の生活リズムを整えられるよう個々のタイムスケジュールを居室に貼っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時点で担当者会議を行い、家族をはじめ、医師や必要に応じ作業療法士、理学療法士、言語聴覚士の意見も取り入れ家族や本人と計画内容を確認している。家族へは専門用語を使わず分かりやすい言葉で説明し、変更が必要になった場合には速やかに現状に即したプランへと変更している。	介護計画は、家族の思いを把握し、本人の意を大切に作成している。ホーム独自のケア記録用紙を使い、職員はプランを共有してケアを実践している。日々の記録や気づきをカンファレンスで話し合い、プランの見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録用紙を用い日々の様子を記録している。その情報は職員間で共有し、状態やレベルの変化があればカンファレンスを行い必要に応じ介護計画の見直しを速やかに行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のその時々ニーズに合わせて法人内の各専門職に助言や指導を仰ぎながら柔軟な対応ができるように取り組んでいる。また、家族のニーズを面会時や電話にて聞き出し、支援記録に記しスタッフ間で共有している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生き生き百歳体操や認知症カフェにも参加し、地域行事では特に屋外の行事には積極的に参加し共に楽しむ時間を作り支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を伺い納得して頂きかかりつけ医の受診に繋げている。結果は電話や面会時に報告している。検査結果の書類等は遠方の家族へは郵送も行っている。また、専門医受診時はかかりつけ医の紹介状にて連携を図っている。	母体の眼科・内科医院が隣接しており、定期的な訪問診療や、状態変化時は24時間電話相談ができ、往診も可能な体制がとられている。かかりつけ医の支援的な姿勢によって入居者は適切な医療を受けることが出来、家族や職員の安心となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は医療に関わる事はすべて施設の看護師に相談報告している。母体の看護師と施設の看護師での必要な情報は共有できており、必要に応じて受診へ繋げたり適切な治療が受けられるよう密に連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応は施設側からのサマリーにて情報の提供を行い、必要に応じ現在の状況を伺うなどし情報を共有している。日にちをおかず職員が見舞いに行くことで安心して頂き早期退院へと繋がるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについては説明しているが、いざ終末期を迎えた時には家族の意向をじっくり聞く時間を作りどのような終末を希望されるのか話し合い納得いただけるような支援に心掛けている。	家族の気持ちに寄り添い、「此处で最期を迎えられてよかった」と思ってもらえるような支援を行いたいとしている。職員は法人内の看護職員から看取り時の具体的な対応について学び、付き添う家族には部屋を用意して家族と共に看取りを行う体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内やカンファレンスで定期的に勉強会を実施している。また緊急連絡網により直ちにバックアップ体制が取れるよう緊急連絡網を回す訓練も年2回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練には消防署員、地域住民にも参加を頂き避難誘導などの手順や実践訓練を行っている。また非常持ち出し袋の準備、食品の備蓄など災害に備えている。	夜間を想定した火災避難訓練では、利用者全員の避難誘導が行われ、訓練後は、職員の気づきや消防署員のアドバイスを受けて話し合い、災害に備えている。海に近い地域性もあり、台風や大雨などの予測できる災害時は、管理者と複数の職員がホームに待機して情報を収集し、早めの避難を心掛けている。昨年の大雨洪水時には、ホーム2階の小規模多機能ホームへ全員避難している。	ホームは海に面し、海拔数メートルの地域に位置していることから、津波を想定した地域の避難訓練に参加することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活パターンに合わせた行動や入居者様の身振り手振り表情での信号を見落とさずゆっくり優しい言葉かけをプライバシーにも十分配慮している。	人権やプライバシーについては研修などで繰り返し学んでいる。利用者の羞恥心や気持ちに十分配慮した声掛けや介助を心掛けている。管理者は職員に「自分の身内が言われたらどう思いますか」と問いかけて、対応の振り返りを促し指導をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の入居者様には筆談やジェスチャーでコミュニケーションを図り、目の不自由な入居者様にはスキンシップを図りながら耳元でゆっくりと声かけをし本人が思いを伝えやすい環境づくりに努め、自己決定を一番とした支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候や季節によって生活リズムに変化がみられるため、本人のその日の暮らし方を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整髪は勿論の事、季節に合わせた衣類の選択は本人と共に行う等、おしゃれのお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は何よりも大切で楽しみなものと考え、食材の皮むきや食材切り等を職員と一緒にやっている。また、個々の好き嫌いを把握し別メニューの提供も行っている。そして落ち着いて食事ができるよう音楽にも心配りをしている。	法人栄養士が作成した献立を基に、調理担当職員が地元の食材や近隣住民から頂いた野菜なども活用して調理している。毎月1日を変わりごはんの日として赤飯、いなりずし、山菜おこわなどが提供され、利用者の楽しみとなっている。咀嚼、嚥下機能が低下しても安易に食事形態を変更せずに、咀嚼機能を考えた調理法を工夫している。	誕生日などは、その人の食べたい物、好きな物をメニューに取り入れるなどがあると、食事が更に楽しくなると思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立を基に個々に合わせた形状にして提供している。水分が入り難い時はゼリーでの対応をし水分量の確保に努め日々の水分量チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促しチェックしている。介助が必要な入居者様は介助し就寝前には入歯洗浄を行い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、また表情やサインを読み取りトイレ誘導している。立位、座位困難な入居者様に対しても日中は2人介助にてトイレ誘導し排泄を促している。	尿意のない利用者には排泄チェック表から時間を見計らって声掛け・誘導して、トイレでの排泄が出来るように支援をしている。夜間のおむつやパット交換は睡眠を妨げないように、かぶれなどの肌トラブルにならないように、配慮して支援をしている。清拭は、オゾン水を使い、清潔保持に配慮している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っている。水分補給や運動で便秘を予防し、ヨーグルトや柑橘類の提供等で出来るだけ自然排便を促している。個々の状態に合わせた便秘薬や坐薬の使用も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルや体調、その時の気分に合わせて入浴していただく。拒否がある場合は時間をずらしたり日を改める等、本人の意思を尊重している。また、入浴剤や柚子湯、菖蒲湯など季節を感じ楽しめるような支援を行っている。	入浴は1週間に2～3回を基本としているが、毎日でも入浴可能である。個浴とリフト浴があり、全員がゆっくり浴槽につき心地よく楽しめるように支援している。ぬる湯を好む人、長湯を好む人、毎回入浴剤を入れる人など、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動や作業などを強要せず自由に休息できるように支援している。各居室には温度計と湿度計を設置し特に夜間は室温や乾燥等に気を付け暖房と加湿器は一對としている。また、寝具は清潔に保ち安眠できるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の病名を把握し、服薬支援できている。薬の変更や追加があればカンファレンスで看護師を中心に薬の勉強会を行っており、目的の把握も出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を生かした役割分担を心がけ、強要せず快く楽しみながらできるよう支援している。また体操やレクリエーション、散歩などでストレス発散や気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事に参加し地域の方々との交流を図っている。また、本人の希望があれば家族へ連絡し一時帰宅の支援も行い、家族や本人の希望があれば職員と一緒に他の施設に入所されている姉妹への面会にも伺っている。	花見や初詣など毎年恒例の外出は、新型コロナウイルス感染予防を図りながら行っている。ホームから湾を一周する散歩コースや、近くの花壇に行くなど、戸外に出て外気に触れ気分転換が図れるような支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もあり現金は施設で預かり金として管理し、必要時には手渡し自由に使っていただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話したり、家族からの電話を取り次いだり自由にできる体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは心和むような空間づくりに努め、季節を感じられるようなディスプレイや季節の花を生けたりと工夫している。混乱の無いようトイレの扉には「便所」と張り紙をし、温度計や湿度計にて過ごしやすい温度調節に努めている。また視覚障害のある方には季節や天気などを一つ一つ説明している。	共用スペースは掃除が行き届き、清潔感がある。毎月、文庫から借りる本を数冊選んで、入居者の目に触れやすいようにテーブルに置いている。リビングでは穏やかな表情で職員と話しをしたり、ソファで寛ぐ入居者の姿が見られた。視覚障がいのある人には、明るさや匂いが感じられるように座る場所等に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆっくりくつろいだり、畳スペースで横になったりと自由にできる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込まれる寝具等は自宅で使用されていたものを推奨し、心地よい居室作りに取り組んでいる。また、ご本人の作品は居室に展示し愛着の持てる居室作りを努めている。	居室は使い慣れたものや懐かしい物などが持ち込まれ、その人らしい部屋となる様工夫している。視覚障がいのある入居者には、食事を準備する匂いが感じられるようにキッチンに近くて採光が多く取り入れられる角部屋を用意し、居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口には自分の居室と分かるような目印がある。日付の確認は、職員が毎日掛け替えするカードを作り独自のものを使用している。		